

目 次

緒言 棚瀬孝雄

序にかえて——逸脱から融合への軌跡 和田仁孝

第1部 法と社会のメタ理論 解釈法社会学の地平

アカウントの社会的解釈

——Florian Znanieckiの社会学方法論を手掛かりにして……櫻村志郎 3

I アカウントとしての社会的データ II アカウントと社会学研究
方法論 III 行為の能動的要素としての状況の定義 IV 行為解
明の結果としての学習 V 結論

行為の理論の収斂——解釈法社会学とタルコット・パーソンズ…久保秀雄 26

I はじめに II 原点となるマックス・ウェーバー III 泣き寝
入りの行為の理論化 IV 理論の共通基盤 V おわりに

密猟主体と第三の波……上田竹志 43

I はじめに II 民事紛争処理における人間像 III 外部参照の
諸形式 IV パラドックスの意義と可能性 V おわりに

何が不法行為法の敷居を高くしているのか

——権利主張が希少であることを説明する

……デイヴィッド・M・エンゲル（久保秀雄：抄訳） 64

I 導入 II 損傷と泣き寝入りについて新たな見方を可能にするた
めに III 損傷と身体化された心 経験的な知見 IV 損傷と環境
V 自伝、フィードバック、再帰性 VI 結論

★コメント1-1 解釈法社会学の解体と再生……阿部昌樹 88

★コメント1-2 和田仁孝法社会学における「交渉理論」と「オレンジ紛争」
……太田勝造 94

第2部 臨床の法 ナラティヴとケア

痛みと償い——震えの声の前で	西田英一	101
I はじめに II 問題の所在 III 意味づけプロセスとしての喪失 IV 理解から攪乱へ V おわりに 振舞いの即興性		
医療とナラティヴ	斎藤清二	115
I はじめに II 医療と医学 III 診断 IV 医師の物語 V 物語的行為としての診断と治療 VI 医学の物語の終焉		
ナラティヴと感情	野口裕二	135
I 感情と臨床 II ナラティヴ・メディエーション III オープン・ダイアローグ IV 専門家モデルと感情		
リーガル・カウンセリング論の再文脈化	山田恵子	151
I 技法論の法社会学 II 知識としてのLC 脱文脈化されたレベル での再文脈化 III プラクティスとしてのLC 微分化されたサイトでの 再文脈化 IV 法的諸実践におけるLC論の位置 V 技法論の活性化 に向けて		
★コメント2-1 けんか別れの作法——人類学者が和田法社会学から学ぶこと	加藤敦典	172
★コメント2-2 解釈法社会学とエスノメソドロジー／会話分析	北村隆憲	176

第3部 紛争・交渉 法の声・ひとの声を聴く

臨床的ADR論——個別的なるもの	中村芳彦	185
I 問題の所在 II ADRにおける第三者の立ち位置と振舞い III ADRの具体的手続過程 IV ADR制度論への示唆 V おわりに 臨床の向こう側にあるもの		
したたかな紛争当事者の紛争解決	仁木恒夫	205
I はじめに 法との接触のあとに II したたかな密漁する主体の		

紛争解決	Ⅲ 日常的規範の法的規範への潜伏	Ⅳ 紛争当事者の
解決の模索	Ⅴ むすびに	

アドボケイト活動と「意思決定支援」	佐藤彰一	222
-------------------	------	-----

Ⅰ パラダイム転換	Ⅱ 意思決定支援の意義	Ⅲ ベストインタ
レストとエンパワーメントの中で	Ⅳ 意思決定支援	いくつかの懸
念	Ⅴ おわりに	

契約改訂合意の拘束力と公正感——覚え書き	山本顯治	249
----------------------	------	-----

Ⅰ はじめに	Ⅱ 再交渉における不履行の威嚇の信憑性	Ⅲ 再
交渉における公正感	Ⅳ おわりに	

★コメント3-1 紛争交渉における和解の意義——和解は未来を創る	草野芳郎	270
----------------------------------	------	-----

★コメント3-2 時間と言葉——医療メディエーションと和田仁孝の紛争過程論	高橋 裕	275
---------------------------------------	------	-----

あとがき	山本顯治／西田英一	281
------	-----------	-----

和田仁孝先生 略歴・主要著作目録		287
------------------	--	-----